

# 北朝鮮による拉致問題について

1970年代から80年代にかけて、北朝鮮による日本人拉致が多発し、17名が政府によって拉致被害者として認定されています。2002年9月に北朝鮮は日本人拉致を認め謝罪し、再発の防止を約束しました。同年10月には5人の被害者が帰国しましたが、他の被害者については未だに解決しておらず、最初の拉致被害発生から既に40年以上が経過しており、すべての拉致被害者の一刻も早い帰国が望まれています。



## ある日突然、 人生を奪い去った北朝鮮の拉致。 もしそれが自分だったら、 家族だったら…。

### 北朝鮮による拉致問題とは…

1970年代から80年代にかけて、北朝鮮の工作人員などが多くの日本人を北朝鮮に拉致しました。なぜ日本人を拉致したのか真相は分かっていませんが、日本人を装ってスパイを送り込むため、北朝鮮のスパイに日本の習慣や日本語などを教える教育係として利用するために、日本人を拉致したのではないかとされています。

政府認定の拉致被害者は17名ですが、その方たちの他にも拉致の可能性を排除できない人がおられます。

北朝鮮側が拉致を認め謝罪した後、5人の拉致被害者とその家族が帰国することができましたが、その他の人の安否については納得のいく説明がありません。

政府認定の拉致被害者17名の中には、失踪当時大阪市内の飲食店で働いていた原 救晃はら たけあきさんも含まれており、大阪に暮らす私たちにとっても切実な問題です。

### 北朝鮮側の説明の問題点とは…

北朝鮮側は、生存者5名を帰国させ、安否不明の12名のうち8名は死亡、4名は北朝鮮に入っていないと主張しています。しかし、死亡したと説明している被害者の死亡の事実を裏付ける客観的な証拠が、まったく提示されていません。

また、北朝鮮に入っていないとされる被害者は、捜査の結果、いずれも北朝鮮の関与が明らかであり、北朝鮮が消

息をまったく知らないという説明も信じられません。

このようなことから日本政府は、北朝鮮側の拉致被害者の安否に関する主張や説明を受け入れることはできません。

### 日本政府の取り組み

政府としては、北朝鮮側から納得のいく説明や証拠の提示がない以上、安否不明の拉致被害者が全員生存していることを前提に、全ての被害者の安全確保と即時帰国、真相究明と拉致実行犯の引渡しを強く要求しています。そして全ての拉致被害者の一刻も早い帰国を実現するために、政府の総力を挙げて最大限の努力を尽くすとしています。

また、拉致問題をはじめとする北朝鮮当局による人権侵害問題に関する国民の認識を深めるとともに、国際社

### 取り戻すための「ブルーリボン」

ブルーリボンは、拉致被害者の救出を求める運動の中で発案されたものです。ブルーの色は、日本と北朝鮮をへだてる「日本海の青」、そして、被害者と家族を結ぶ「青い空」をイメージしています。

「誰もが北朝鮮による拉致被害者の生存と救出を信じる意思表示」として、ブルーリボンをつけようという運動がなされています。



毎年12月10日～16日は「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です!